

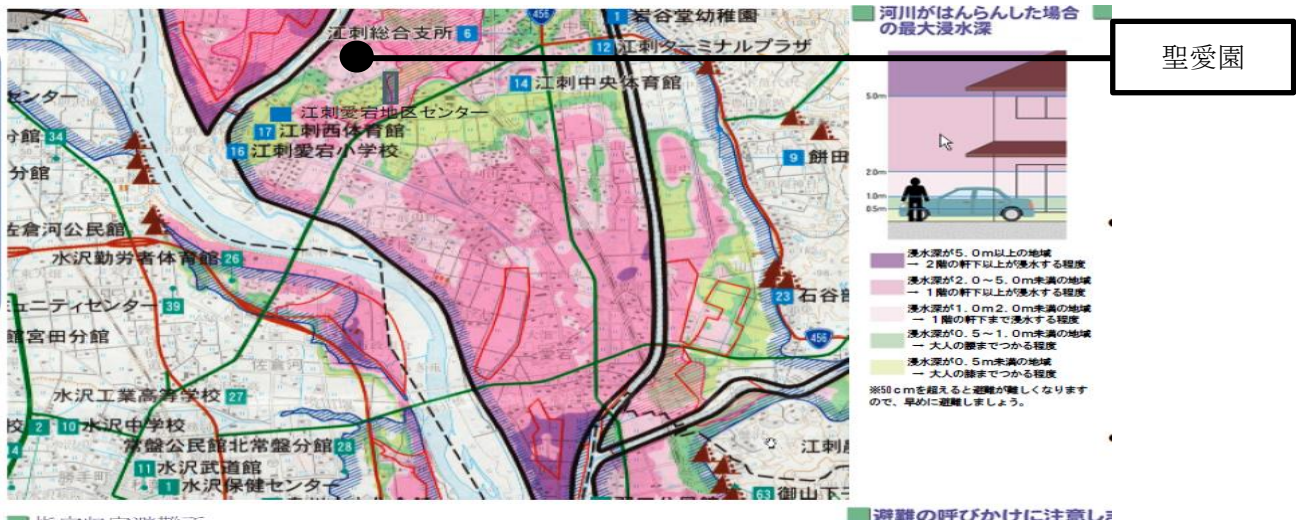
平成 28 年 11 月 10 日見直し

1. 目的

当法人が設置運営する施設（以下「施設」という）の非常災害（水害・土砂災害）時の対策（以下「水害等対策」という）は、施設の立地条件、入居者や一時利用者（以下「利用者」という）の特性、発生時間などに応じた対策を講じることが必要です。施設は広瀬川がすぐ後ろを流れ、奥州市が定めるウォーターハザードマップでも危険地域に指定されています。災害発生時に災害弱者となりうる施設利用者を守るために、全職員が共通の水害等を行うために本計画策定する。

2. 施設立地条件

施設が立地する江刺区愛宕字八日市地内は、愛宕地区ウォーターハザードマップを確認すると、土砂災害危険地域に立地しており、浸水深が2.0～5.0m未満の地域（1階の軒下以上が浸水する程度）と定められています。



3. 水害等に関する情報の入手方法

水害等が発生する危険性は、降雨量等日々刻々と変化するため、特に局地的豪雨など様々な情報を多角的に得て総合的に判断する事が重要となります。テレビの天気予報・ラジオ・インターネットや盛岡气象台、奥州市から発表になる防災情報に注意情報収集を行なう。また、奥州市などが策定している基準も参考にする。

①奥州市が策定する危険雨量の想定基準

前日まで雨量がほとんどない場合		前日までに連続雨量（100 mm）があった場合	
注意を要する	当日雨量 150 mm以上	注意を要する	当日雨量 100 mm以上

	当日時間雨量 40 mm以上
警戒を要する	当日雨量 180 mm以上
	当日時間雨量 50 mm以上

警戒を要する	当日雨量 130 mm以上
	当日雨量 100 mm以下でも強風の時

②気象庁が発表する警報・注意報の種類

警報・注意報の種類	内 容（発表基準）
特別警報 （大雨特別警報・暴風特別警報等）	警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、特別警報を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。直ちに命を守るための行動が必要。
警報 （大雨警報・暴風特報等）	警報とは、重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報です。
注意報 （大雨注意報・暴風雪注意報）	注意報とは、災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。

※テレビ・インターネット・ラジオから情報を得られます。

③奥州市長が発表する情報等

避難指示等の種別	取るべき行動
避難指示	指定された避難場所に直ちに避難が必要
避難勧告	お互い助け合って、指定された避難場所に速やかに避難する
避難準備	いつで避難が出来るように、ただちに避難の準備を行なう広報車の情報等に注意し、子ども高齢者は避難を開始する

※テレビ・インターネット・ラジオ・広報車から情報を得られます。

4. 災害時の連絡先及び通信手段の確認

①連絡先

(1) 避難開始前

- ・利用者家族 各部署から連絡
- ・職員（人員招集）へは、非常災害時緊急連絡系統図に添って連絡する。第一列目の職員へは非常通報装置ではなく、直接電話連絡（出勤時は口頭）を行なう。

(2) 避難開始する場合

・江刺総合支所	0197-35-2111
・江刺消防	0197-35-8119
・いとうファミリークリニック（聖愛園嘱託医）	0197-35-0035
・関谷医院（につかわ嘱託医・聖愛園、につかわ産業医）	0197-35-3511
・川東地区自治会長へは、事務局から連絡行う。	

(3) 通信手段

- ・水害時は、電話（携帯電話）が使用できる可能性が高いため、電話連絡を基本とする。回線が混線する可能性もあるため、個人携帯も使用し連絡につとめる。
- ・固定電話、携帯電話が繋がりにくい場合はインターネット回線使用電話（Skype・LINE 電話等）を使用する。

5. 避難を開始する時期、判断基準

※水害に関しては、比較的予測が可能な災害のため日中帯・夜間帯・休日の区別はしない。

※自衛災害本部の設置準備は、事務局長の判断で管理者・防災委員長（災害本部設置時は防災委員・各主任）を収集し今後の予測しうる状況を確認し、持ち出し物品の準備開始指示を行なう。

・自衛災害対策本部の設置準備基準

⇒ 台風直撃・総雨量 200 mm 以上の場合・時間雨量 150 mm 以上の場合等総合的に判断し必要と判断した場合。また、招集は各管理者・防災委員長から提案することも出来る。

・自衛災害対策本部の設置基準

⇒ 自衛災害対策本部設置準備後、災害の危険性が極めて高まった場合。または、設置準備時に次回招集時間が決められた場合に招集し設置する。

※招集者 ⇒ 事務局長・事務局次長・管理者・防災委員長・防災委員・その他必要と認められる職員とする。

①防災体制

体 勢	判 断 基 準	活 動 内 容	職 員
注意体制	・大雨又は台風に関する気象情報発表	・気象情報等の情報収集 ・河川の様子を確認 ・自衛災害対策本部の設置準備 ・持ち出し物品の準備、確認	全職員 防災委員 管理者等 全職員
警戒体制	・各種注意報、警報発令	・洪水予報等の情報収集	防災委員

	・ 広瀬川氾濫注意情報発表	・ 自衛災害対策本部の設置 ・ 職員へ連絡・招集 ・ 持ち出し物品の準備、事前搬送 ・ 利用者家族への事前連絡	各管理者 防災委員 全職員 相談員
非常体制	・ 避難準備情報発表 ・ 広瀬川氾濫警戒情報発表 ・ 広瀬川のベンチ付近まで増水した場合	・ 避難開始 ・ 行政や各種関係機関へ連絡	全職員 防災委員

6. 避難場所

- ①全事業所、江刺中核工業団地内白金運輸倉庫を避難場所とする。
 - (1) 避難場所へ向かう際は、事前に白金運輸株式会社（電話 35-0111）へ連絡を行なう。
 - (2) 避難経路（下記記載）は小道を使わず、大きな道路を使い避難する。多数の車輛を使用するため、避難経路は統一する。
 - (3) 避難誘導係が、避難場所入口で交通整理を行なう。
 - (4) 避難場所に到着後は、指揮係の指示で下車又は車内待機を行なう。
 - (5) 避難場所へ建物内へ避難後は、防護安全係の指示の元体調確認を行なう。
- ②予測不能な状態で、非常態勢に移行した場合、行政機関の指導で移動を禁止された場合は、聖愛園につかわ 2 階を一時避難所とする。
 - (1) 上記の場合は、緊急時が予測されるため、移動は迅速に行う。
 - (2) 河川の氾濫があり、外に出る事が著しく危険な場合、聖愛園拠点は極力高い場所（ベッドの上や屋根裏等）へ利用者を避難させる。

A map of the area around Jousai University. A red line indicates a route starting from a red pin labeled '1' at Senjohome Seiai-en (老人ホーム聖愛園), heading north through Jousai City (江刺市) towards Jousai University (江刺大学). The map shows various landmarks such as Jousai First High School (江刺第一中), Jousai University (江刺大学), and Jousai City Hall (江刺市庁舎). It also displays major roads like National Route 108 and National Route 456, and the Hara River (荒瀬川). Other locations include Jousai Ward (江刺区) and surrounding areas like Jousai Ward (江刺区) and Jousai Ward (江刺区).

①自衛災害対策本部の設置準備時行動内容

- 157

②自衛災害対策本部の設置時の行動内容

- (1) 災害情報・周辺施設の状況確認
- (2) 避難開始時期の再確認、決定
- (3) 職員招集の指示
- (4) 指揮命令系統の確認と指示
- (5) 各事業所営業の可否決定
- (6) 各職種・各部署主任への指示
- (7) 各種役割の指示・決定

③デイサービスセンター、ショートステイサービス、複合型サービス事業所、べびー★るーむは、各事業所の管理者が、営業可否の判断を行う。また、営業停止と判断した場合、各部署は利用予定者・担当介護支援専門員へ営業停止の連絡を行う。利用者への電話連絡ができない場合、電話が繋がらなかった利用者は、直接自宅へ行き営業停止の説明を行います。

④各事業所が営業停止の判断後、利用者が（自宅に戻る事が極めて危険と判断した場合）により、営業停止の判断の限りではない。

⑤警戒態勢・非常態勢時に避難誘導や状況確認等で職員が園外に出る際は、必ず職員は 2 名 1 組となり 1 名は携帯電話等の通信手段を確保し外出すること。

⑥警戒体制下で非常体制（避難）に移行する場合には、利用者家族、奥州市に対し、「避難する」旨を連絡する。ただし、注意体勢から警戒態勢をとらず非常態勢に移行した等、緊急を要する場合は、利用者家族への連絡より避難を優先し避難誘導後に利用者家族へ連絡する。

⑦避難完了後は行政に避難が完了した旨を連絡する。また、避難完了情報は行政よりラジオやテレビを使い一般に情報提供をお願いする。

⑨避難対象

(1) 聖愛園入居者	84 名（最大）
(2) 聖愛園ショートステイサービス利用者	20 名（最大）
(3) 聖愛園デイサービスセンター利用者	30 名（最大）
(4) 聖愛園につかわ入居者	29 名（最大）
(5) 複合型介護事業所聖愛園につかわ利用者	15 名（最大）
(6) 聖愛べびー★るーむ利用者	12 名（最大）
利用者合計最大 190 名	

(7) 当日出勤職員 … 約 60 名

⑩避難誘導方法

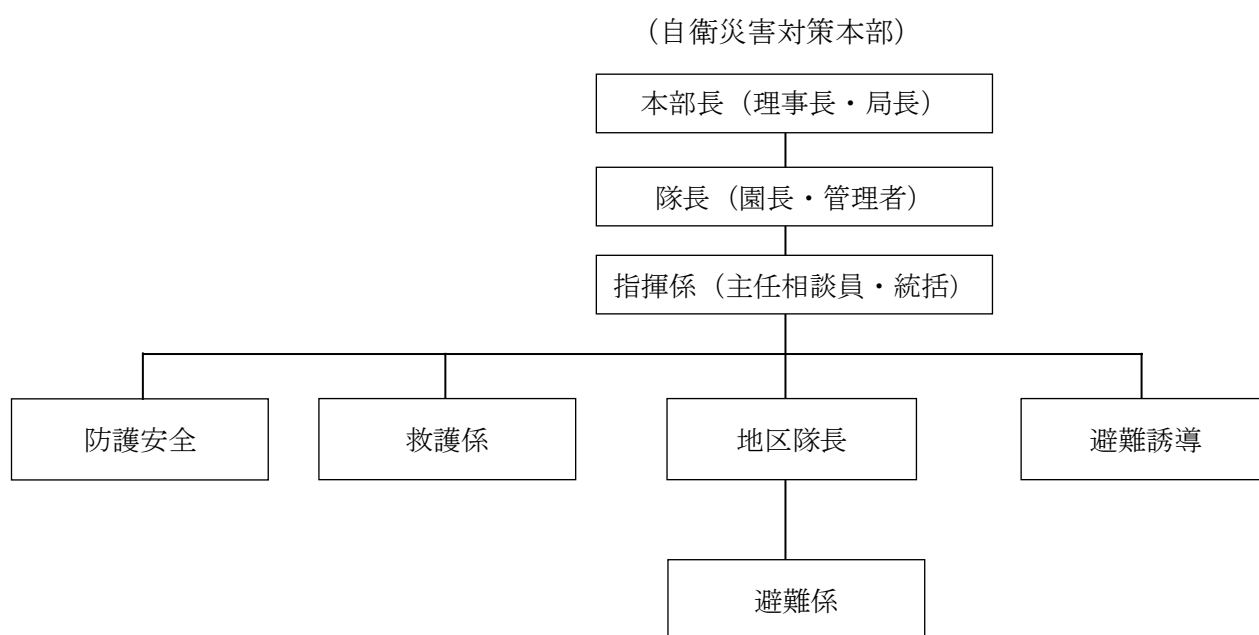
- (1) 自衛災害対策本部の設置準備時に物品準備の指示があった際は、別表の持ち出し物品リストに添って必要物品を準備し、事前に避難場所に搬入しておく。
- (2) 避難誘導時の指揮係は、2名配置し避難誘導指揮と、避難場所での待機指揮も務める。
- (3) 避難開始時は、ガスの元栓を閉め、避難完了時にブレーカーを切る。
- (4) 車両は公用車全車両、不足分は出勤職員私用車を使用する。公用車は施設入所者を優先し、デイサービス・ショート利用者、歩行可能者は職員私用車で避難する。また、ピストン輸送はせず、極力一回で避難完了させる。
- (5) 玄関口や避難場所での車両誘導は防護安全係・避難誘導係が行なう。
- (6) 浸水の恐れのある階と平屋の施設からの避難を優先させる。
- (7) 避難時は指揮係の指示に従い避難する。また、車輛乗車時に各部署のチェック表を活用し未避難者が無いように確認する。
- (8) 避難の際は、利用者の体調変化、事故等には十分留意する。
- (9) 川東自治会から避難の要請を受けた場合には、にっかわ2階を避難場所とする。
- (10) 避難方法は、火災時の避難方法に準ずる。
- (11) 自衛災害対策本部の各係は、自衛消防隊の例による。

③自衛災害対策本部 任務

自衛災害対策本部長 <u>理事長</u> （指揮、命令、監督等を行う。） 自衛災害対策本部長代理 <u>事務局長</u> 自衛災害対策隊長 <u>園 長</u> （自衛災害対策本部長・本部長代理が不在の場合は、その任務を代行する。） 自衛災害対策副隊長 <u>副園長 ・ 管理者</u> （隊長を補佐し、隊長が不在時は、その任務を代行する。）				
本部隊の編成 (平常時)		平常時の任務	非常態勢発令時の組織編成と任務	
指 揮 係	<u>主任</u> <u>生活相談員</u> <u>統括主任</u>	1 隊長、副隊長の補佐 2 自衛災害対策本部の設置 3 地区隊への命令の伝達並びに情報の収集 4 情報の収集並びに災害現場の確認 5 その他指揮統制上必要な事項	情報収集班 として編成 する。	1 報道機関等により警戒宣言発令に関する情報を収集し、各部署へ周知する。 2 周辺地域の状況を把握する。 3 放送設備、掲示板、携帯拡声器等により在館者に対する周知を図る。 4 食料品、飲料水、医療品等及び防災資機材の確認をする。 5 在館者の調査
		1 行政等各連携機関への通報並びに通報の確認 2 館内への非常通報並びに指示命令の伝達 3 関係者への連絡 4 地域情報収集・地域住民対応利用者安否確認		
地区隊長	<u>各部署主任</u> <u>又は、それを補佐する者</u>	1 指揮係からの指示を基に、各部署の職員への指示 2 各部署避難状況の把握、指揮係への報告 3 避難係との連携	点検措置班 として編成 する。	建物構造、防火設備、避難施設、電気、ガス、エレベーター、陰物の点検及び保安の措置を講ずる。
避難誘導係	<u>介護支援専門員</u> <u>生活相談員</u>	1 車輛の交通整理 2 非常口の開放並びに開放の確認 3 避難上障害となる物品の除去 4 逃げ遅れの確認及び本部への報告 5 ロープ等による警戒区域の設定	平常時と同様の編成とする。	混乱防止を主眼として、退館者の案内及び避難誘導を行う。

防護安全係	庶務	1 土嚢の準備 2 非常電源の確保、ボイラー等危険物施設の供給運転停止	点検措置班として編成する。	安全点検を主眼とした任務に就く。
救護班	看護職員 機能訓練指導員	1 応急救護所の設置 2 負傷者の応急処置 3 体調不良者の保護、情報の提供 4 避難場所での健康管理	救護班	避難優先者の選定 救護を主眼とした任務に就く。
避難係	介護員 上記職員以外の職員	1 利用者避難全般	避難係	迅速な避難に主眼をおいた任務に就く。

④組織内容・指揮命令系統図



9. 防災教育及び訓練の実施

- ①毎年4月に新規採用の職員を対象に研修を実施する。
- ②毎年、水害を想定した総合避難訓練を行なう。
- ③2年に1回、全職員を対象として情報収集・伝達及び避難誘導に関する訓練を実施する。